

2018年12月21日 **金** 16:15-17:15

会場：広島大学生物生産学部C301

「免疫不全ブタを用いた医農 連携研究の最前線」

野地 智法

（東北大学大学院農学研究科 准教授）



近年の遺伝子組換え技術の進展により、遺伝子改変が容易になった今日、医学と農学との融合研究として、産業動物である家畜の有用性に注目が集まっております。先天的に免疫システムを発達することのできないヒトの免疫不全症候群は、T細胞を主とした細胞性免疫や、B細胞を主とした液性免疫を作動することのできない疾病であり、その治療法として、造血幹細胞移植が行われますが、治療技術のさらなる改良に期待が集まっております。

我々は、農研機構と共同で、免疫不全症候群の責任遺伝子の一つとして知られるInterleukin-2受容体 γ 鎖を欠損するブタ（免疫不全ブタ）を用いることで、免疫不全症候群患者に対する新たな治療技術を開発するための研究に取り組んできました。

本セミナーでは、免疫不全ブタという動物モデルを用いた最新の研究成果を紹介することで、医学と農学の連携研究の可能性を学生の皆さんと議論したいと思います。



本セミナーは5研究科
共同セミナーです

問合わせ先：
磯部直樹（7993）
niso@hiroshima-u.ac.jp